慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥野信太郎先生著作目録初稿
Sub Title	Bibliography of professor Shintaro Okuno
Author	丸山, 信(Maruyama, Shin)
Publisher	慶應義塾中国文学会
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾中国文学会報 (Bulletin of The Keio Sinological Society). No.3 (2019.) ,p.83- 94
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	奥野信太郎先生没後五十年記念特集号 特別寄稿
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12810295-20190329-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

奥野信太郎先生著作目録初稿

著書

『随筆北京』	第一書房	昭和十五年
『北京襍記』	東和社	昭和二十六年再版
『日時計のある風景』	二月書房	昭和十九年四月
『幻亭雑記』	文芸春秋新社	昭和二十二年七月
『随筆東京』	世界文庫	昭和二十二年十二月
『北京留学』	東和社	昭和二十六年十月
『柘榴の庭』	読売新聞社	昭和二十七年十二月
『こんにゃく横丁』	筑摩書房	昭和二十七年十二月
『龍の横顔』	文芸春秋新社	昭和二十八年七月
『花寂しくして』	要書房	昭和二十九年一月
『亭主の月給袋』	河出書房	昭和三十年十月
『文学みちしるべ』	新潮社	昭和三十一年二月
『かじけ猫』	新潮社	昭和三十一年十二月
『藝文おりおり草』	章文社	昭和三十二年七月
『奥野信太郎集』（現代知性全集　第七巻）	春秋社	昭和三十三年五月
『はるかな女たち―女妖啼笑―』	日本書房	昭和三十三年十一月
	講談社	昭和三十四年十一月

『浮世くずかご』　講談社　昭和三十五年七月
『紅豆集』　桃源社　昭和三十七年十二月
『はるかな女たち―女妖啼笑―』（ミリオン・ブックス）　講談社　昭和三十八年二月
『中国艶ばなし』（ポケット文春）　文芸春秋新社　昭和三十八年二月
『おもちゃの風景』　三月書房　昭和三十九年四月
『現代交際論』（オリオン・ブックス）　オリオン出版社　昭和四十二年五月
『町恋いの記』　三月書房　昭和四十二年八月
『詠物女情』　新潮社　昭和四十三年二月
『中国文学十二話』　日本放送協会　昭和四十三年八月

翻訳

『女流作家集』（現代支那文学全集　第九巻）　東成社　昭和十五年六月（所収）
『随筆集』（現代支那文学全集　第十巻）　東成社　昭和十五年八月（所収）
老舎『ちゃお・つう・ゆえ』（現代世界文学叢書９）　中央公論社　昭和十六年
茅盾「霜葉は二月の花より紅く」（世界文学大系　六十二　魯迅・茅盾編）　筑摩書房　昭和二十七年八月再版
『世界逸話全集』４　中国篇　筑摩書房　昭和三十三年七月
「本事詩」他（世界短編文学全集　十五　中国文学）　東京創元社　昭和三十四年七月
　集英社　昭和三十八年六月

編集・監修

「ほくろの位置について～世界艶笑譚～」　六興出版社　昭和二十八年

『三田にひらめく三色旗』	鱒書房	昭和三十年三月
『新十八史略物語』全十六巻	河出書房	昭和三十二～三十三年
『中国故事物語』	河出書房	昭和三十二年十一月
『女』	春陽堂書店	昭和三十三年七月
『酒』	春陽堂書店	昭和三十三年
『東京味覚地図』	河出書房新社	昭和三十三年九月
『中国古典文学全集』全三十三巻	平凡社	昭和三十三～三十五年
『自己を生かす交際』	ダイヤモンド社	昭和三十七年四月
『奇策縦横戦国策物語』	人物往来社	昭和三十七年十月
『中国文学』（世界短編文学全集　十五）	集英社	昭和三十八年六月
『中国名言集』	河出書房	昭和三十八年九月
『東京うまい店二〇〇店』	柴田書店	昭和三十八年九月
『酒呑み物語』	柴田書店	昭和三十八年
『恋酒歌仙　酒の飲み方くどき方』	墨水書房	昭和三十九年三月
『東京横浜うまい店二〇〇店』	柴田書店	昭和四十年七月
『中国名言物語』	河出書房	昭和四十二年
『式辞挨拶の事典』	集英社	昭和四十三年一月
『デュエット版　世界文学全集』全六十六巻	集英社	昭和四十三年六月～

児童文学

『福澤諭吉』	金子書房	昭和三十年
『東洋篇Ⅰ』（世界少年少女文学全集　二十一）	河出書房新社	昭和三十七年五月

『唐代小説集』『三国志』　昭和四十二年三月
（中国文学名作全集全十巻のうち翻訳担当。同全集監修）　盛光社
『水滸伝』　主婦之友版・講談社版

慶應義塾関係雑誌発表目録

「三田文学」所収

森先生と支那文学　大正十一年八月
王次回と其作品　大正十一年九月
支那文学の一考察　大正十二年二月
夢冷館随筆　大正十三年八月
雪姑雑録　大正十四年二月
九章に就いて　昭和二年二月
ひとつの清福　昭和九年九月
北京だより　昭和十一年十月
小説　松子（訳）　丁玲女子作　昭和十二年十月
陸素娟のこと　昭和十三年
燕京小吃記　昭和十四年一月
大久保のころ（青柳瑞穂）　昭和二十四年十月
雪夜（詩）　昭和二十四年十二月
小説美女と錬金術（訳）　昭和二十六年五月
相聞（歌）　昭和二十六年五月
與謝野晶子論　昭和二十六年八月

北京にて（折口先生のこと） 昭和二十八年十一月
什刹海附近 昭和三十年一月
魯迅故宅記 昭和三十年十月
名刺なき中国 昭和三十一年一月
京劇雑感 昭和三十二年一月
義父 昭和三十二年六月
永井壮吉教授 昭和三十二年六月
命拾い 昭和三十六年一月
精進料理 昭和四十二年一月

「三田評論」所収

殷汝耕と語る 昭和十一年十月
北平通信 昭和十二年二月
擾乱の北平より 昭和十二年八月
北京篭城二週間 昭和十二年九月
画鶻山房獨影暗し 昭和十四年八月
橋本左内と魯迅 昭和十五年七月
緑蔭閑話（対談） 昭和四十二年八月・九月
「雲の峰」によせて 昭和四十二年十一月

「慶應義塾創立百年記念論文集〜文学」所収

中国演劇の発想について 昭和三十三年十一月

「藝文研究」23号所収

佐藤朔先生還暦記念論文集・巻頭言		昭和四十二年二月
淡路町時代		昭和四十二年二月

「史学」所収

真福寺本遊仙窟考勘記	第十四巻四号	

「塾」所収

父兄のみた塾と塾生（座談会）	六号	昭和四十二年十二月

「三田新聞」所収

燕京書肆記	一八九・一九〇号	昭和二年二月・三月
表紙の説	一九八号	昭和二年六月
国漢の答案は簡単に作文は脱線せぬやう	二〇九号	昭和三年三月
桃花扇おぼえ帳	二二五号	昭和三年十一月
車塵集を薦めることば	二四五号	昭和五年一月
「景星」の著者を語る	二六七号	昭和六年六月

「新文明」所収

浴泉の記		昭和二十七年三月
中国の今昔を語る（座談会）		昭和三十年一月・二月
今月の話題（座談会）		昭和三十三年三月

学術論文

「福井博士頌寿記念東洋思想論集」

李賀雑考　昭和三十五年十一月

「歴史教育」所収

遊仙窟訓読の伝説について　昭和二十九年九月

「文学」所収

趙翼の杜甫論　昭和三十七年十二月

「日本中国学会報」所収

水と炎の伝承～西遊記成立の一側面～　一八号　昭和四十二年六月

編者　記

以上は著書と、三田関係の出版物および学術論文に限定して一応の整理を試みたものである。この範囲に限定しても、先生の著述はまことにおびただしく、なお不明のものや不確定の個所がある始末である。この作業には朝日新聞の森忠彦・慶應義塾図書館の丸山信両君の協力を得た。記して謝意を表する。

先生のジャーナリズムにおける活躍は、すこぶる多方面にわたり、その全貌を把握することは一層困難であるが、その一端だけでも示すために丸山信君の調査カードにより、昭和二十三年から雑誌に発表した文章を次に掲げる。ただし新聞・週刊誌・業界紙・宣伝文・書評などはこのなかに含まれていない。

尚、死の前日に「女性自身」昭和四十三年一月二十九日号掲載の「おしゃれはくりかえさない」を編集者に渡しており、絶筆として机上に残っていたのは「小説新潮」同年四月号の「のんきな時代」である。（佐藤一郎記）

諸雑誌に発表のもの

金瓶梅覚書　「エロス」　昭和二十三年九月

岫雲寺	「桃源」	昭和二十三年十一月
バラックと日本人	「玄想」	昭和二十三年十二月
モニュメンタ・セリカの思出～ゲーテと中国文学～	「わだち」	昭和二十四年一月
中国文学と私	「群像」	昭和二十四年四月
好色文学の芸術性と世界性	「評論」	昭和二十四年四月
新制大学号就航す	「教育と社会」	昭和二十四年五月
魯迅の文章について～朝華夕拾を中心として～	「思潮」	昭和二十四年五月
梅蘭芳のこと	「ニューエポック」	昭和二十四年五月
老舎の「火葬」について	「個性」	昭和二十四年七月
中国人の童心と老成心	「世界報告」	昭和二十四年七月
季節のオルゴール	「教育復興」	昭和二十五年一月
読書について	「教育と社会」	昭和二十五年二月
新聞王と製紙王	「文芸春秋」	昭和二十五年二月～三月
一見哈哈笑	「世界春秋」	昭和二十五年四月
容認公認美人など	「評論」	昭和二十五年五月
文豪の遺産	「新潮」	昭和二十五年五月
今は昔の銀座の酒場	「文芸春秋」	昭和二十五年八月
東京風俗～酒場今昔記～	「読売評論」	昭和二十五年十月
人口楽園の薔薇～乱世と中国人の心～	「朝日評論」	昭和二十五年十月
東京風俗～浅草雑記～	「読売評論」	昭和二十五年十月

当世女大学気質	「群像」	昭和二十五年十一月
東京場末風流記	「文芸春秋」	昭和二十五年十一月
随園の女詩人	「文学界」	昭和二十五年十二月
銀座の酔の果て所	「文芸春秋」	昭和二十五年十二月
大師初詣・穴守から川崎へ	「文芸春秋」	昭和二十六年一月
芸妓アパート	「文芸」	昭和二十六年二月
老舎の四世同堂	「群像」	昭和二十六年三月
理想の女性について	「小説朝日」	昭和二十六年七月
海坊主と花魁～海のエロ山のエロ～	「読書春秋」	昭和二十六年七月
中国庶民の読書	「オール読物」	昭和二十六年七月
ご存じ名所巡り（対談―檀　一雄）	「自警」	昭和二十六年十月
人間の顔	「群像」	昭和二十六年十月
江戸っ子田舎者（対談―中野好夫）	「文学界」	昭和二十六年十一月
丁玲	「日曜日」	昭和二十六年十一月
中華艶笑三題	「小説新潮」	昭和二十七年一月
北京の正月	「オール読物」	昭和二十七年二月
爐辺百物語（座談会）	「群像」	昭和二十七年二月
教師について	「郵便」	昭和二十七年三月
中国文学～世界文学案内２～	「アトリエ」	昭和二十七年七月
肖像画	「オール読物」	昭和二十七年七月
都会の戦慄（座談会）	「文芸春秋」	昭和二十七年八月
寸言集		

コミちゃんの信念　「小説朝日話の手帳」　昭和二十七年九月
真珠帝国の老爺　「文芸春秋」　昭和二十七年十月
北京歳暮　「改造」　昭和二十七年十二月
学者の喧嘩と文士の喧嘩　「新潮」　昭和二十八年一月
反俗を貫く最後の文人～永井荷風の人と作品～　「文芸春秋別冊」　昭和二十八年一月～三月
三田山上の青春　「文芸春秋」　昭和二十八年一月～三月
かたばみ座雑感　「文芸界」　昭和二十八年四月～六月
読書・購書・売書　「学灯」　昭和二十八年四月～六月
長安城の月～〝魚玄機〟を脚色して～　「群像」　昭和二十八年四月～六月
魚玄機（戯曲）　「心」　昭和二十八年七月～九月
初老も愉し　「文芸春秋」　昭和二十八年七月～九月
中国の鬼談　「文学界」　昭和二十八年七月～九月
よき教授永井荷風　「新潮」　昭和二十八年七月～九月
曝書　「自警」　昭和二十八年九月
仙人と仙薬　「大法輪」　昭和二十九年一月～三月
道教の地獄観　「大法輪」　昭和二十九年一月～三月
春の憂鬱　「群像」　昭和二十九年一月～三月
私のヴィタ・セクスリアリス　「文芸春秋」　昭和二十九年一月～三月
一斑を以て全貌を推すなかれ～女性は男性に優先するか～　昭和二十九年四月～六月
中国の今昔　「世界」　昭和三十年一月～三月
新中国の売春婦をみて　「中央公論」　昭和三十年一月～三月

新しい中国の印象	「社会教育」	昭和三十年一月～三月
新中国を旅して	「開拓者」	昭和三十年一月～三月
夏から秋へ	「世界」	昭和三十年七月～九月
二つの投影	「新潮」	昭和三十一年四月～六月
中里介山人物研究	「文芸」	昭和三十一年四月～六月
梅原竜三郎を訪う	「みずゑ」	昭和三十一年四月～六月
大人の世界こそ〝太陽族〟	「婦人公論」	昭和三十一年七月～九月
「白夫人の妖恋」を見る（座談会）	「キネマ旬報」	昭和三十一年七月～九月
京劇の発展と梅蘭芳	「世界」	昭和三十一年七月～九月
池の水	「小説公園」	昭和三十一年七月～九月
永井荷風における好色趣味	「文芸」	昭和三十一年十月～十二月
與謝野先生の漢詩	「群像」	昭和三十一年十月～十二月
美容学校長の抱負	「新潮」	昭和三十三年一月～三月
女妖啼笑	「群像」	昭和三十四年一月～十二月
「世界の幽霊」を語る	「芸能」	昭和三十四年七月～九月
荷風と中国文学	「中央公論」	昭和三十四年七月～九月
永井荷風を偲んで	「芸能」	昭和三十四年七月～九月
見たもの聞いたもの（対談）	「芸能」	昭和三十四年七月～十二月
		昭和三十五年一月～十二月
		昭和三十七年九月～十一月
		昭和三十八年一月～二月
		昭和四十年八月・十月

創作合評	「群像」	昭和四十一年二月・四月・六月
女と雪（対談）	「芸能」	昭和三十五年四月～六月
文士劇拝見（対談）	「芸能」	昭和三十七年一月～三月
中国の幽霊	「世界」	昭和三十七年一月～三月
中国の艶笑文学	「国文学」	昭和三十七年一月～三月
久保田万太郎先生をしのぶ（座談会）	「芸能」	昭和三十八年五月
テレビ・ラジオ（対談）	「芸能」	昭和三十八年六月
3月4月の舞台（対談）	「芸能」	昭和三十八年八月・九月
5月6月の舞台（対談）	「芸能」	昭和三十九年五月
渋谷天外～7・8月の舞台～（対談）	「芸能」	昭和三十九年七月
ヨーロッパ能談義（対談）	「芸能」	昭和三十九年九月
ヨーロッパ歌舞伎談義（対談）	「芸能」	昭和四十年十一月
近代劇としての「大寺学校」	「悲劇喜劇」	昭和四十年十二月
		昭和四十三年二月

（丸山　信　編）

（『藝文研究』第二十七巻　慶應義塾大学藝文学会　一九六九年三月より再録）